

監査結果

総合所見

(1) 全体所見

第3次環境基本計画に基づく環境施策の実施状況と、すべての所属における環境配慮行動の取組状況を対象として、書面による状況確認を行いました。市民、事業者、職員および他市職員からなる監査チームメンバーが事務局より送付された監査資料の内容を参照して個人としての評価コメントを作成し、その後、専門家が個々のコメントを総合して評価、所見の作成を行いました。

書面監査の結果、「環境基本計画目標達成状況監査」では多くの施策が概ね計画どおり順調に進捗していること、「取組状況監査」では職員が環境への意識を高めて日々の環境配慮行動に取り組んでいることを確認できました。

(2) 環境基本計画目標達成状況

令和3年度からスタートした第3次環境基本計画について、5つの基本目標ごとに成果指標の進捗状況、令和6年度取組状況と令和7年度以降の実施予定を対象に点検しました。

成果指標15項目のうち、令和10(2028)年度計画目標に向けて順調に推移していることが確認できたものが12項目あり、このうち10項目で計画目標をすでに達成しました。計画の中間地点において、多くの施策が順調に成果を上げておりと評価できます。

成果指標の改善が見られなかったものは2項目でした。

「再資源化率」については、関連する他の指標は目標を達成しており、各事業の実施状況も良好である中での結果です。指標値の改善が進まない要因について、本指標に紐づく事業成果との関連も含めて分析し、目標達成に向けた取組の加速化を図っていただくことを望みます。

「自然緑化活動等に参加している団体数・参加人数」は、市民による活動量をカウントするものです。質の高い学習・体験の機会が提供されている中、こうしたイベント・講座等への参加をきっかけとして新たに活動を始める市民を増やしていきたいものです。一步を踏み出すことをサポートする仕掛けや場づくりについて検討していただくと良いと思います。

(3) 環境配慮行動の取組状況

全職員を対象としたクイズ形式の「環境マネジメントシステム取組状況チェックシート」を実施し、その集計結果を監査チームにて確認し所見を作成しました。全回答者の平均正答率は85.8%でした。全問正解者は回答者の37.0%に上りました。

基本的な環境配慮行動については、多くの項目で高い正答率となりました。一方で、改善傾向にはあるものの、伊丹市役所における分別ルールについては正答率の伸びしろが残っています。知識不足というよりも、「迷わないための仕組み」や判断基準の共有が十分でないことが要因と考えられます。日常業務の中で自然に正しい行動が選択できる環境づくりが今後の課題と言えます。

環境政策の動向や概念に関する設問についても、ほとんどの項目で高い正答率となりました。重要な概念を具体化する取組事例、各所属の業務と関連付けた情報などを提供することで、より深い理解と実践に結び付く知識の習得が期待できると考えます。

第一部 環境基本計画 進捗状況監査

[監査日程] 令和7年12月9日(火)～令和8年1月15日(木)

[監査場所] 書面監査

[監査対象] 令和6(2024)年度伊丹市環境基本計画(第3次)(改訂版)年次報告

1. 環境基本計画 成果指標の進捗状況

環境基本計画(第3次)のすべての基本目標に係る施策を監査対象としました。

成果指標15項目のうち、令和10(2028)年度計画目標に向けて順調に推移していることが確認できたものが12項目あり、このうち10項目で計画目標をすでに達成しました。

令和6年度成果指標の進捗状況

評価記号	評価基準	項目数
◎	令和10年度計画目標を達成している。	10
○	単年度目標は達成しているが、最終年度目標は達成していない。	2
△	取組んでいるが、指標値の進展(改善)が見られない。	2
—	評価できない(データ未入手)	1

基本目標	成果指標	2019年度 現状値	2024年度 実績	計画目標 (2028年度)	2024年度 達成状況
1. 気候変動に対応するまち	①本市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量 ^{※1}	24,267 t-CO ₂	18,162t-CO ₂	18,180 t-CO ₂	◎
	②市域からの温室効果ガス排出量(推計値)	826 t-CO ₂	815t-CO ₂ ^{※2}	722 t-CO ₂	○
	②浸水対策達成率	83.83%	88.54%	84.26%	◎
2. 資源が循環するまち	①発生抑制率	4.9%	14.4%	10.9%	◎
	②資源化率	17.5%	16.6%	18.6%	△
	③最終処分量(埋立量)	7,020t	6,002t	6,719t	◎
3. 自然環境と共生し生物多様性が保全されるまち	①みどりに対する市民満足度	—	89.9% ^{※3}	80%	◎
	②在来生物の種類数	188種	203種	193種	◎
	③自然緑化活動等に参加している団体数・参加人数	125団体 494人	107団体 303人	125団体 700人	△
4. 良好な都市空間の整備と生活環境が保全されるまち	①環境基準達成率(水質(BOD))	100%	100%	100%	◎
	②地域清掃活動支援件数	771件	768件	1,100件	○
	③景観に対する市民満足度	79.9%	83.0% ^{※3}	80%	◎
	④交通ネットワークに対する市民満足度	72.4%	78.8% ^{※3}	73%	◎
5. 環境意識と協働の輪が広がるまち	①環境イベント・講座等に参加した人数	4,969人	15,706人	5,250人	◎
	②緑化や自然保護活動に参加した市民の割合	—	—	10%	—

※1 調整後排出係数による ※2 2021年度推計値 ※3 2023年度実績値

第二部 環境配慮行動の取組状況監査

[監査日程] 令和7年12月9日(火)～令和8年1月15日(木)

[監査場所] 書面監査

[監査対象] 環境マネジメントシステム取組状況チェックシート集計結果

1. 環境マネジメントシステム取組状況チェックシート 集計結果

(1) 全体集計結果の概要

回答者 1,179 人のうち、436 人が全問正解でした。全回答者のうち全問正解であった人の割合は 37.0%であり、昨年度の 34.5%、一昨年度の 24.4%を超える結果でした。

基本的な環境配慮行動については、多くが高い正答率となりました。

環境政策の動向に関する設問 (Q6～9) についても、昨年度までに比べて多くの方が正解の選択肢を選んでいました。研修資料で事前にしっかり学習し、理解を深めた上でチェックシートに取り組んでいただけたようです。

表1 設問ごとの正答、正答率

設問	正答	正答率	(前年度 正答率)
Q1 夏場の空調は、室温〇℃を目安に設定する。	③28℃	92.5%	94.5%
Q2 冬場の空調は、室温〇℃を目安に設定する。	③19℃	84.1%	88.3%
Q3 公用車の利用を削減するための行動として、間違っているものは？	②すぐに現場対応できるよう、資材などはひと通り積んだままにしておく	96.3%	94.7%
Q4 コピー機の使用方法について、環境に配慮したものは〇〇である。	①モニターでのチェックを行い、ミスプリントを減らす	95.8%	95.8%
Q5 伊丹市役所での正しい分別方法は？			
(1)両面使用済みのコピー用紙	④資源物 (溶解)	92.3%	93.1%
(2)コーティングされた紙、シール台紙、コピー用紙の包み紙	③資源物 (雑誌類)	74.1%	74.8%
(3)プラスチック製の容器 (カップ麺の容器、飲料容器など)	②産業廃棄物	84.6%	85.6%
(4)付箋	④資源物 (溶解)	70.0%	71.3%
(5)水ですすいだプラスチック製の弁当がら	②産業廃棄物	83.7%	88.3%
(6)金属製の文具類	②産業廃棄物	93.6%	96.1%
(7)ペットボトルのラベル	②産業廃棄物	79.9%	83.0%
Q6 気候変動と生物多様性の関係として、誤っているものはどれでしょうか？	③生物多様性を確保・回復しても、気候変動の影響を軽減することにはならない	80.5%	

Q7 気候変動が生物多様性に与える影響として、正しいものはどれでしょうか？	②気温上昇が産業革命以前から2℃の場合、世界のサンゴ礁はほぼ消失すると予測されている。	93.8%	—
Q8 生態系の危機の説明として、誤っているものはどれでしょうか？	②里地里山は人の手を入れずに自然の遷移に任せることで、自然の質を向上させられる。	94.7%	—
Q9 気候変動と生物多様性に一体的に取り組むため、生物多様性条約 COP15 で採択された「30by30」目標の説明として、正しいものはどれでしょうか？	③2030年までに、世界の陸と海の30%を保全する	71.0%	—

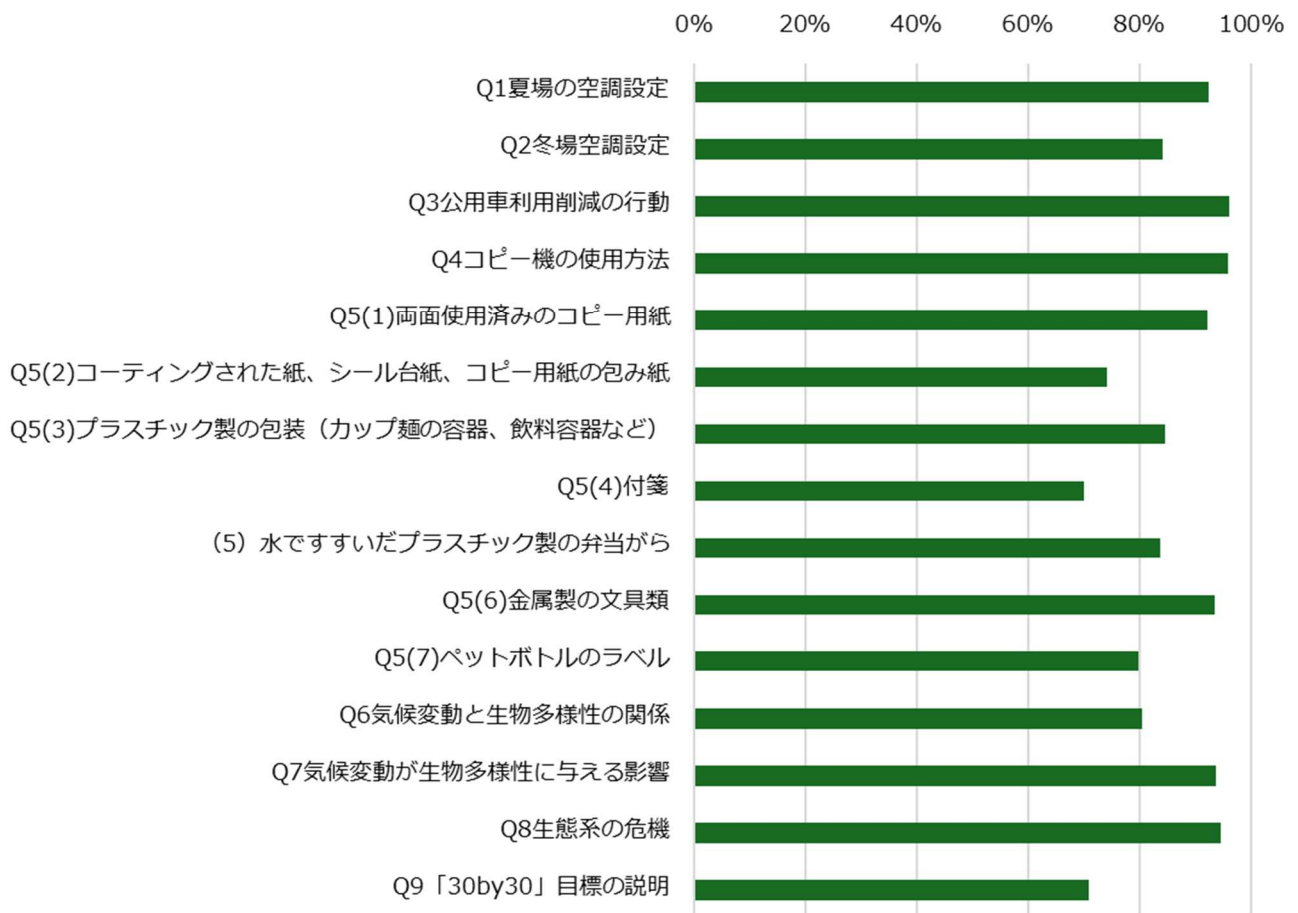


図1 設問別正答率